



# ひろひ・だより

vol.12. 2019. 3.15

お日さまいっぱいのお2月のある日。ひろひハウス前では、<リ>おあくりの女の子たちがお手紙書きに集中している。澄佳「ほってどうなの?」と聞くと折原さんから「ほに丸!」字にも関心増してきた<リ>の女の子たち。橙季が「いろはちゃんにお手紙もらっちゃった!」と嬉しそうに見せに来ました。眞弓「読んでもいい?」橙季「いいよ!」眞弓「橙季くん、いろはちゃん、好きだよ。もうすぐお別れだね...」いつの間にか来て聞いていたいろはと羽路斗、いろははにこにこしている。羽路斗「橙季のこ、好きなの?」といろはに聞きました。間髪もたず、いろは「だ〜いい好きだよ!」くっつくは自然体のいろはの在り方が気持ちいい! ひろひハウス前、帯は柔らかな温かい空気が漂いました。

2月末、おあくりの巣立ちに向けての話し合いが始まりました。3/5まであと何日とカレンダーで数えることが日課になっていました。「今どんな気持ち?」「みんなに伝えたいことある?」「最後に、どんなことをしたい?」「何か残してありますか?」...それぞれが自分の言葉で、語り出しました。そして「ひろひのみんなで、子どももスタッフもみんなが楽しいこととしたい!」が共通の願いになっていました。

- 最後の田んぼに行って羊にお別れをしよう! → 行った後、植木さんから「羊を返してもらわないと会えないからね。それを解決しよう!」と提案しました。
- デザートを作ってみんなに食べたい! → 「どんぐりがある時に!」4コアツキに決まる → 「太佑くん、食べられるかな」 → 豆乳生クリームも入れる → 「飯盒もやりたい!」 → <リ>が話し合い、カレーとトナリスープを作ることに決まりました。
- お泊りしたい! → 「ひろひのキャンプも...ね」に決まりました。
- 子どももスタッフもみんなでお出かけしたい! → 天音「動物園に行きたい!」「いいね」から始まって動物の話しがとまらなくなりました。→ 「どんぐり」は秋の行きの無理だから、おあくりのお日さまの日に行こう! → <リ>とおあくりは

おあくりのお手紙書き、「自分たちでおやつを考えよう」「持ち物を考えよう」「動物園で何する?」 → 3/5. 動物園の広場を水たまりを一時! この日から大夢も登場。本当にみんなで行きました!

- 最後の日にやりたいこと → 去年のおあくりの思い出にシールを見てあげたい! → 「4人で作ってほっとするトリートしよう!」に決まりました。 → ①パプリカダンスチーム ②かたこチーム ③つばしダンスチーム ④トビダンスチーム

動物園の話し合いの中で「デジカメを持って行きたい!」案が出ました。碧空、植木さんから「絶対持って行きたい!」迷っている天音、羽路斗、橙季、いろは、そしてずっと黙っていた穂岳が「穂岳は、持って行かない! 自分の頭の中にしまっておく!」天音「私もやる!」いろは「私も!」羽路斗「おれは持っていかない!」持って行かない方に傾いていました。大人が何も言わずに「おれは」と思いました。私は「おれ」を決めた保育と「願いを持った保育」のことを考えていました。

今、おあくりは、「私たちの大事な時間! 遊ぶ時間がなくなる!」と、一日何事も叫びながら過ごしています。子どもたちの中にも、人間にふれる時だと実感し、おれは楽しくなっています。おれのとらえることのできたものが全てではない。正確であるともいえません。そのことをわかってきた時、子どもたち一人ひとりを否定的にとらえないように、おれは心をかけてきました。理解するとは、想像力を働かせて、その背後にある心の世界を感じとることをおれは思う。子どもがおれは、と語り合える戦場。子どもの姿から出発すること。来年もスタッフみんながドッキワクワクできたらいいと願っています。

先日、植木さんが「ひろひ、楽し〜い!」と、ひろひひろひと跳ねて叫んでいました。新しい一日は何かわからない未来だけれど、きっと楽しい日にたどり着く希望とあり、きっと楽しい日を作れるという漠然とした自信が子どもたちの中にあるのだと思う。

おあくりの子どもたちが新しい場所へ生きていく上での大きな助けは困難に出会うときに、柔軟な心で解決をすすめる想像力。希望を持つ力ではないかと思う。巣立ちの皆さんが保護者の方も含めて、気持ちを整えたいおあくり。ひろひの森に遊びに来て下さいね。(敬称略)

眞弓

